秋田高校同窓会だより

VOL.101

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

6月25日に総会開催

- ●提言 ◎大野 忠広氏
- ●エッセイ ◎村山　司氏
- ●親子3代で秋高ラグビー ◎新出 康史氏
- ●秋田を撮り続けて ◎高橋 尚義氏

秋高NOW ◎写真部、バドミントン部

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日

●卒業生総数／38,110人（旧制中学7,080人、新制高校31,030人）　●在籍生徒数／822人（男子469人、女子353人）

●同窓会員数／38,577人　●物故者／9,191人　●現会員数／29,183人　［平成29年４月10日現在］

●ホームページ　http://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

平成29年度同窓会入会式

新入会員275人にエール

平成29年2月28日、秋田高校同窓会に新たな会員が加わった。翌日に卒業式を控えた3年生275人である。同窓会入会式は、教職員と同窓会の先輩たちも出席して母校大体育館で開かれた。

式では町田睿会長が挨拶に立ち、卒業生の間で語り継がれている「汝、何の為に其処に在り也」という言葉を紹介し、次のように話した。

「金田勝年法務大臣は『座右の銘は何ですか』という質問に対し『汝、何の為に其処に在り也』と答えた。また日本で一番古い国立博物館である東京国立博物館の銭谷眞美館長の座右の銘も『汝、何の為に其処に在り也』であった。2人とも秋田高校の卒業生で『汝、何の為に其処に在り也』は、昭和38年から4年間秋田高校の校長を務められた鈴木健次郎先生が入学式や卒業式で生徒たちに問いかけ続けた言葉である。

校歌の中でうたわれている『わが生わが世の天職いかに』『おのれを修めて世のためつくす』という言葉も鈴木健次郎先生の言葉と相通じるものがある。

自分の人生を振り返ってみると、自分のためではなく世のため人のためという思いで仕事をして生きることは、結果として自分のためになる。皆さんはこれから、世の中で自分が最も輝く天職は何か、それを探す旅に出ると思う。若いうちにこそチャレンジして、大いに失敗して頑張ってほしい。若い時の失敗は全て将来の糧になる。怖がらずに使命感を持って健闘することを祈る」と新入会員にはなむけの言葉を贈った。

続いて、平成15年卒業で3年前に東京から家族で五城目町に移住し、地域おこし協力隊として活動している丑田香澄さんが新入会員に激励の言葉を贈った。

「自分は高校時代、外に飛び出してこそ、やりがいのある仕事や刺激的な人生があると信じていた。そして大学卒業後、コンサルタントという仕事につき、夜中までがむしゃらに働いていた。しかし、子どもが生まれ、都会で子育てする中で、町内に知り合いが1人もいないという母親がたくさんいることを知った。周囲に見守ってくれる人がいる、秋田では当たり前だと思っていたことが実は宝なんだと気づき、古里秋田の見方が少しずつ変わった。

そして、娘が3歳の時、縁あって五城目町に移住した。とはいえ、秋田に帰ると田舎の良さを享受する分、刺激や多様な人たちとの出会いが減ってしまうと思っていた。しかし、それは大きな勘違いだった。五城目町には若い起業家が集まってきていて、中には秋田高校の卒業生も移住してきている。大学卒業後、教員・IT企業の社員を経験してから五城目町に移住し、農家になった男性。この男性は、農家だけではなくキイチゴビールを醸造する会社まで作ってしまった。島根県で最新の教育プログラムに携わった経験を活かし、秋田で20代の若者が起業するためのプロジェクトを県や企業と連携しながら主導している男性もいる。そして世界一少子高齢化が進んでいる秋田の五城目町に若者や起業家が集まってきているという事実に、各国の研究者が注目し、調査研究にやってきている。

そんな経験から皆さんに伝えたいのは、どうせ無理と思わずに行動すること、秋田に帰りたいけど仕事がないと諦めるのではなく、帰ってくるためにはどうしたらいいか発想を転換すること。そんな時、秋高ネットワークを活用してもいいし、行動することで道は開ける」と話し、新入会員にエールを送った。

最後に、高島清子同窓会副会長から記念品を受け取った新入会員代表の北嶋彩夏さんが「さまざまな場面で同窓会の方々のお力を借りる機会があると思う。同窓会会員としてその名に恥じないよう精進したい」と感謝の言葉を述べた。そして全員で校友会歌を歌い275人の入会を祝った。

記念品のUSBメモリを受け取る新入会員代表

天上天下 TENJO TENGE

今年も母校では多くの卒業生が学びやを後にし、入れ替わるように多くの新入生が正門をくぐった。卒業生は思い出をかみしめるように秋高の坂を下り、新入生は期待と不安を抱きながら坂を一歩一歩上ったことだろう▼坂の名称は、今では「うぐいす坂」で定着している。いつ、誰が、どんな理由で名付けたのだろうか。秋高に在職中、そのことに興味を持って調べた元教師がいる▼結論はこうだ。桜の咲く頃になると、坂の周辺はウグイスの鳴き声がそれはそれはうるさいぐらい響き渡る。ずばり、それが理由。昭和40年代にはそんな呼び名はなく、名称が付いたのは50年代になってからのようだ。名付け親は不明。自転車で坂を下る際のブレーキ音に由来するとの説は、こじつけにすぎない▼それが真相かどうかは定かでない。あくまで元教師の見解である。諸説あっていいと思う。ただ36年に校舎が手形中台に完成して以降、時代が変わろうと、慈愛に満ちたようにどっしりと構える母校の坂の風情だけは不変である▼今回から本欄を担当することになった47年卒のOです。どうかしばらく駄文にお付き合いのほどを。

6月25日に通常総会
専大・齋藤監督が記念講演

新緑の季節を迎え、心地よい風が吹き抜けるようになりました。同窓会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

平成29年度の通常総会と記念講演、懇親会を6月25日（日）に左記の要領で開催します。6年後に迫った母校の創立150周年に向けての重要な総会となります。

記念講演の講師は、専修大学野球部監督の齋藤正直氏（昭和54年卒）です。齋藤氏は平成26年、監督に就任してわずか1年目に専修大学を東都大学野球2部で優勝させ、さらに1部入りした一昨年も優勝に導き、古豪復活を果たしました。1部に復帰したシーズンの優勝は、昭和44年の日大以来、実に46年ぶりという快挙でした。

短期間でどのようにチームを育て上げたのか、どのように意識改革を図ったのかなど、非常に興味深いお話を伺う機会になります。齋藤氏には講演会後の懇親会にも参加していただくことになっております。

言うまでもなく懇親会は同窓の絆を深める絶好の場となります。同期の仲間はもとより、先輩や後輩をお誘いあわせのうえ、奮ってご出席くださいますようご案内申し上げます。

日時／平成29年6月25日（日）午後2時～
場所／秋田ビューホテル
（秋田市中通2丁目6の1　電話018－832－1111）
総会／午後2時～3時20分
議題　平成28年度決算・事業報告
平成29年度予算・事業計画ほか
記念講演／午後3時30分～4時30分
講師　専修大学野球部　齋藤 正直監督
演題『指導者とは？ 人を“育てる”ってそんなに簡単か？』
懇親会／午後4時40分～(会費5,000円。当日、会場でいただきます)
申し込み／ご出席の方は、同封のはがきに必要事項をご記入のうえ、52円切手（6月1日以降投函の場合は、郵便料金改定により62円切手になるので要注意）を貼り、6月15日（木）まで同窓会事務局にお送りください。FAX、メールでお申し込みいただいても結構です。
［同窓会］ FAX　018（832）9588
Eメール　aki-doso@cna.ne.jp

講師の齋藤 正直氏（昭和54卒）

さいとう・まさなお／1960年にかほ市（旧象潟町）生まれ、57歳。専修大学経済学部卒。秋田高3年夏に秋田大会ベスト4。専大では東都1部で2度優勝し、外野手でベストナインを2度受賞した。川崎製鉄に入社。同社千葉野球部（現JFE東日本）では、現役12年間で都市対抗野球大会に9度出場。94年に監督に就任し、在任4年間で都市対抗に3度出場（準優勝1度、ベスト4に2度）。その後、日本野球連盟競技力向上委員、日本オリンピック委員会強化スタッフを務めた。2014年から専修大学野球部監督。

平成29年度大学入試合格状況
医学系に延べ44人、東北大38人、北大11人

この3月には7クラス275人の3年生が卒業しました。全員が4年制大学への進学希望で、センター試験は270人が受験しました。このうち、国公立大学の合格者は141人で、昨年度より5人少なくなりました。

大学別では、東京大学は現役が4人、過卒が3人で合計7人（昨年比△1）でした。現役で4人が合格したのは東北地区で3番目でした。秋田大学の医学部医学科には現役で15人（＋6）、過卒で9人、合計24人合格しました。

他の国立大学では、現役と過卒を合わせて北海道大学11人（＋4）、一橋大学1人（±0）、東北大学38人（△5）、医学部医学科には延べで44人（＋9）が合格、そのうち国公立大学は35人（＋13）でした。内訳は秋田大学24人、東北大学5人、弘前大学3人、群馬大学1人、信州大学1人、福島県立医大1人でした。

私立大学は現浪延べで209人が合格しました。最も合格者が多かったのは明治大学で20人（△15）、次いで中央大学14人（＋3）、東京理科大学14人（△5）でした。早稲田大学は10人（△15）、法政大学は11人（△12）でした。私大全体の合格者数は延べで、現役91人（△29）、過卒118人（△58）でした。合格者数が減ったのは、私大全体の出願者数が大きく減ったことによると考えられます。

3年生全体に対する合格率は66・9％（昨年69・6％）で、浪人した生徒は101人と昨年度より9人多くなりました。秋田高校では高い志を掲げそれを最後まで諦めずに努力することを目標に進路指導を行っております。今年度も多くの生徒がこの目標のもと大きな頑張りを見せてくれました。この後も生徒の第一志望達成のため、教職員一同で支援していきたいと思います。（秋田高校進路指導部）

大学合格状況一覧　平成29年4月7日現在

国公立管外大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
北海道大	3	8	11	一橋大	0	1	1
弘前大	3	2	5	横浜国立大	1	0	1
岩手大	5	0	5	新潟大	21	4	25
東北大	28	10	38	金沢大	0	1	1
宮城教育大	0	1	1	信州大	3	1	4
秋田大	39	14	53	静岡大	0	2	2
山形大	2	1	3	京都工芸繊維大	0	1	1
茨城大	2	1	3	奈良教育大	1	0	1
筑波大	5	1	6	岩手県立大	1	0	1
宇都宮大	1	2	3	宮城大	1	0	1
群馬大	0	1	1	国際教養大	5	1	6
埼玉大	4	0	4	福島県立医大	0	1	1
千葉大	2	2	4	首都大東京	0	1	1
東京海洋大	0	1	1	福井県立大	0	2	2
お茶の水女子大	0	1	1	都留文科大	0	1	1
東京大	4	3	7	大阪府立大	0	1	1
東京外大	3	0	3	防衛大学校	1	0	1
東京学芸大	6	1	7	国公立管外大計	142	66	208
東京芸大	1	0	1				

医学部医学科

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
弘前大	2	1	3	自治医科大	0	2	2
東北大	3	2	5	国際医療福祉大学	1	0	1
秋田大	15	9	24	杏林大	0	1	1
群馬大	0	1	1	東京医科大	0	1	1
信州大	0	1	1	マリアンナ医科大	0	1	1
福島県立医科大	0	1	1	産業医科大	0	1	1
岩手医科大	0	2	2	医学部医学科計	21	23	44

私立大

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
岩手医大	1	2	3	帝京大	1	0	1
東北学院大	1	2	3	東海大	1	0	1
東北医薬大	2	3	5	東京医大	0	1	1
尚絅学院大	1	0	1	東京家政大	2	0	2
ノースアジア大	0	1	1	東京家政学院大	0	1	1
日赤秋田看護大	2	0	2	東京女子大	1	2	3
国際医療福祉大	2	1	3	東京電機大	2	2	4
自治医大	0	2	2	東京農大	0	1	1
白鴎大	0	1	1	東京理大	5	9	14
獨協大	2	3	5	東洋大	1	4	5
千葉工大	1	0	1	日本大	4	7	11
青山学院大	4	2	6	日本女子大	1	0	1
学習院大	0	1	1	日本体育大	1	0	1
北里大	4	2	6	法政大	3	8	11
共立女子大	1	0	1	明治大	11	9	20
杏林大	0	1	1	明治学院大	0	2	2
慶応大	5	5	10	明治薬大	1	2	3
国学院大	0	2	2	立教大	3	4	7
国際基督教大	0	1	1	早稲田大	7	3	10
国士舘大	3	0	3	麻布大	0	1	1
駒澤大	0	2	2	神奈川大	0	1	1
実践女子大	2	0	2	マリアンナ医大	0	1	1
芝浦工大	3	3	6	新潟医療福祉大	2	0	2
上智大	0	3	3	同志社大	0	1	1
昭和大	0	1	1	立命館大	0	5	5
昭和女子大	0	1	1	近畿大	2	0	2
昭和薬大	0	1	1	関西学院大	0	1	1
成城大	0	1	1	甲南大	1	0	1
専修大	2	2	4	産業医大	0	1	1
拓殖大	1	0	1	日本文理大	1	0	1
中央大	3	11	14	私立大計	91	121	212
津田塾大	1	1	2				

提言

被災を乗り越え 地域医療に徹する

大槌おおのクリニック院長　大野 忠広（昭和62卒）

1. 被災直前のクリニック　2. 夢の跡
3. プレハブの仮設診療所　4. 本設のクリニック

岩手県内陸部は産業も多く医療機関も充実している一方、沿岸町村の医療過疎は深刻である。人口1万人あたりの医師数（平成25年）は全国平均24・6人、岩手県全体で19・4人、盛岡地域27・7人に対し、大槌町はわずか8・5人である。沿岸部赴任当初は開業を考えてはいなかったが、医局を離れ勤務するうちに、内陸部で幾多の医師の中の一人として働くより、自分を必要とする人が多いこの地域で開業しようと決意し、平成21年の春から準備を進めてきた。

平成23年、新築のクリニックは引き渡し直後に津波によって失われ、莫大な自然のエネルギーに圧倒された。言葉を失い、次に出てきた思いは「また一からやり直しか…」というものだった。前に進む以外に選択肢がないことを既に心のどこかで受け入れていたのかもしれない。そして高台にあった老人ホームのフロアを借り受け、最小限の物品を揃え、無事だったスタッフを集め、当初の開業予定日だった4月11日に何とか仮設診療所を開設した。3カ月後、吉里吉里の自宅近くに土地を借り、プレハブを建てて移設、さらに平成25年4月、同じ敷地内に本設のクリニックを新築、ようやく本格スタートをきることができた。

在りし頃を想っても戻っては来ない、立ち止まっても何も生まれない、前を向かなければ道はない、進み続けなければ道は拓けない。そう思って、その時その時出来ることをやってきた。長続きさせなければ意味がないと考え、あえて力を抜いたりペースを落としたこともあった。視野が狭くならないように周囲を見回すことを心がけてきた。この社会・この地域での自分の役割が何かを考えてきた。

現在、患者数もある程度となり、また、県外からの復興工事関係者のかかりつけとなったり、産業医、施設嘱託医、地域包括支援センターや介護事業所らとの連絡会、郡市医師会の○○部会、有志の勉強会など次第に忙しくなりつつある。

狭い地域なので、あの患者さんとこの患者さんが兄弟姉妹だったり親戚だったり幼なじみだったり、こっちの患者さんと繋がっていたり仲違いしていたり、さまざまな関係がある。「大野先生に診てもらったけど、あんたも一度行ってみなさいよ！」そう言ってもらえているような、何となくそんな感じがする。そういう人と人とのつながりを有り難く感じている。「地域に根ざして」とか「地域医療のために」とか、それはこんなところから始まっているんだなと実感し、自分を支えてくださっている地域の方々に感謝している。医師一人に出来ることは限られているが、老い衰えるまでこの地で奮闘したいと願う。

2019年ラグビーワールドカップが行われる釜石市鵜住居（うのすまい）地区は車で10分ほどの距離である。人々の心に余裕が生まれ、地域一帯となって盛り上げられるような復興を望む。

Profile

おおの・ただひろ／昭和43（1968）年秋田市生まれ。平成7年岩手医科大学卒業、2年間の研修医を経て第二内科（心血管腎内分泌分野）に入局。平成13年同大大学院医学研究科入学、平成17年学位取得。岩手県立二戸病院、大船渡病院、釜石病院などに勤務。東日本大震災で開業目前の医療機器を全て失ったが、1カ月後の平成23年4月、惨禍を乗り越えて大槌おおのクリニックを開業、今も過疎地域の医療に日々向き合う。

三松堂
取締役会長 後藤 一（昭和43年卒）
有限会社 三松堂
本　店／秋田市中通五丁目7-8
TEL (018) 833-8401 FAX833-8411
トピコ店／秋田ステーションビル内
TEL (018) 889-3583

NISSAN
羽後日産モーター株式会社
代表取締役会長
土肥 啓作
（昭和43年卒）
〒010-0913 秋田市保戸野鉄砲町13-2
TEL.018-824-4114
http://www.ugo-nissan-motor.co.jp/

創業 天保元年　銀線細工
秋田 竹谷本店
代表取締役
竹谷 繁（昭和43年卒）
〒010-0001 秋田市中通2-4-3
TEL 018-835-1331
URL:http://takeyahonten.sakura.ne.jp

KANPU かんぷー
代表取締役　社長
菅原 廣悦（昭和43年卒）
取締役　社長室長
菅原 広大（平成18年卒）
株式会社 寒風
〒010-0342
秋田県男鹿市脇本脇本字前野1-1
TEL.0185-25-2222 FAX.0185-25-2223
http://www.kanpu.co.jp/honsha/

合同委の議論活発化　機動的な対応目指す

秋田高校同窓会の前線組織とも言うべき5つの常置委員会で何か特別な問題があったときだけ開催することになっている合同委員会が、今後定期的に開催する方向で動きだしており、すでにこの9カ月間で3回の合同委員会を開催するなど課題解決に向けた本格的な活動を展開している。

合同委員会は常置委員会規程により、2つ以上の常置委員会に互いに関連する事項やその他重要事項が発生した場合に、会長が招集できることになっているが、目まぐるしく変化する社会情勢に対してきめ細かく機動的に対応をするためには組織横断的な情報共有が欠かせないと判断したためである。

同窓会の最高意思決定機関は言うまでもなく年1回開催される通常総会である。総会に諮る議案はそれぞれ年2回開かれる運営委員会と理事会の場で協議され提案されるというのが大まかな流れである。しかし運営委員会、理事会では時間的な制約もあって案件について十分に深掘りできないうらみがあり、これでは同窓会の全体像や隠れた課題が見えにくいことから、同窓会運営に関するあらゆる問題について日頃から情報交換を重ね、じっくりと課題を検証する議論の場が必要だという声が上がっていた。

そこで浮上したのが合同委員会の定期開催である。合同委員会は昨年の7月25日を皮切りにこれまで3回開催された。出席者は会長代理で議長の佐野元彦副会長と各常置委員会の正副委員長、それに佐藤事務局長。会議ではあらかじめ各委員長から提出された同窓会が直面している課題や問題点について忌憚のない意見を交換した。議論は短期的課題から中長期的課題まで多岐にわたり、突っ込んだ話し合いが行われた。

その結果、導き出された結論は以下の5項目であった。①合同委員会は年3回（7、10、3月）定期的に開催する②会費納入率向上対策として会費の口座自動振替を積極的に進める③現在一般会計に計上している名簿会計を特別会計に戻し、単年度収支が見えやすいようにする④母校の教育活動を支援するため創立140周年記念事業として設立した教育振興基金については、基金のあり方を含めて今後1、2年をかけてより充実した制度となるよう検討を進める⑤平成29年度の常置委員改選に関しては、特に広報委員の補充を急がなければならない。

初の年次輪番制導入　広報委員会で先行実施

2回目の合同委員会はほとんど広報委員会の人材確保対策に議論が集中した。広報委員会からはかねてから広報委員の人材不足が恒常的に続いており、委員自身による後継者探しが限界に達していること、同窓会員の高齢化が進む一方、少子化により若年会員が減少する時代を迎えて同窓会誌の定期発行を主な業務とする広報委員会の機能不全が懸念されること、など現状を憂える報告が上がった。そして広報委員会から打開策として3年ごとに入れ替わる年次輪番制の導入が提案された。

これは企画委員会と広報委員会とで協議して作り上げたもので、昭和40年代卒から平成卒に至る連続する3年次あわせて9人で構成するローテーションである。平成29年度から始まる最初の年次輪番制は昭和46、47、48年卒、昭和56、57、58年卒、平成3、4、5年卒とし、委員の負担をできるだけ軽減するため毎回、最年長委員は67歳で交代できるよう配慮した年齢構成になっている。

11月18日に開かれた運営委員会に諮った結果、円滑な世代交代を図る観点から今後、年次輪番制の導入は避けられないとの意見が大勢を占め、まず広報委員会で先行して試行し、3年後に他の常置委員会でも導入するかどうか検討することを確認した。

これら5項目はその後開かれた理事会でも報告・承認され、来月6月25日の通常総会に提案、承認される見通しだ。

退職金裁判が和解

前女性事務職員を原告、秋田高校同窓会を被告とする退職金の追加支払いをめぐる裁判は4月5日、秋田地方裁判所において、原告と原告代理人弁護士、被告代表者として町田睿会長、被告代理人弁護士が出席し、当事者間で和解が成立した。

平成29年度教職員人事異動

平成29年4月1日付

【退任】		
教諭	小田嶋　博	
非常勤講師	阿部　晴代	
キャリアアドバイザー	竹越百合子	
【転出】		転出先
副校長	木村　利夫	大館桂桜高校校長
教頭	樫尾　尚樹	角館高校校長
教諭	木村　司	本荘高校教諭
教諭	松渕　烈子	秋田西高校教諭
教諭	伊藤　成孝	能代松陽高校教頭
教諭	牛丸　靖浩	秋田大学大学院
教諭	須田　直子	本荘高校教諭
教諭	脇坂太佳子	由利高校教諭
教諭	高橋　明	岩手県復帰
教諭	草階　健樹	文部科学省派遣
事務長補佐	吉岡　智弘	五城目高校事務長
臨時講師	幸野　純大	西目高校教諭
非常勤講師	工藤　稔	大館鳳鳴高校教諭
非常勤講師	岡野　文秀	秋田北高校
【転入】		転入元
副校長	佐々木英憲	横手城南高校教頭
教頭	熊谷　禎子	秋田県総合教育センター主任指導主事
教諭	富樫　良恵	秋田中央高校教諭
教諭	佐々木繁樹	大曲高校教諭
教諭	伊藤　健一	由利高校教諭
教諭	佐藤　健一	秋田北高校教諭
教諭	三浦千寿子	秋田工業高校教諭
教諭	須田　真	秋大附属中学校教諭
事務長補佐	田村　和朗	北秋田地域振興局副主幹
臨時講師	坂本　真道	聖霊高校
臨時講師	岸　嘉之	能代工業高校
臨時講師	進藤　聡	御所野学院高校
臨時講師	佐賀　薫	秋田中央高校副校長
非常勤講師	石郷岡佐希子	
非常勤講師	鎌田　聡	金足農業高校・秋田商業高校

Essay エッセイ

イルカと話したい

東海大学海洋学部教授　**村山　司**（昭和54卒）

むらやま・つかさ／東京大学大学院修了。博士(農学)。秋田高校には高校2年のときに転入してきた。鯨類研究者だが、船に弱い。現在、全国各地の水族館でイルカやその他の海獣類を相手に感覚・行動・知能の研究をしている。主な著書に「イルカのふしぎ」(講談社)、「ナックの声が聞きたくて」(講談社、厚生労働省児童福祉文化財指定)、「イルカ」(中央公論新社)、「鯨類学」(東海大学出版会) ほか。

「ファ　ラブ　パァ」

プールサイドに佇むひとりの研究者にイルカが語りかけている。高校時代、テレビで見た「イルカの日」という映画のワンシーン。この映画で、将来、イルカと会話する研究をしようと決めた。

でも、イルカに言葉を教える研究なんて誰もやってない。指導者を求めてさ迷い歩いたが、結局、「自分でやります」と、大学院のテーマとして独学で研究を始めた。

そもそもイルカは脳も大きく、表面のシワもヒト並みだし、そこに分布する神経細胞はヒトをもしのぐ数である。感覚や認知のしくみにはヒトにも共通した特徴すらある。

そんな賢そうなイルカに私は言葉を教えている。お相手は鴨川シーワールドで飼育されているカナダ生まれのシロイルカの「ナック」。もう30年近い付き合いである。

ナックはすでにフィン、マスク、バケツ、長グツの4つの物の「名前」を覚えている。私たちが赤くて丸い果物を「リンゴ」と書き、〝リンゴ〟と呼ぶのと同じように、ナックは、フィンは「⊥」という記号と「ピィ」という呼び方、マスクは「R」と「ピィーーー」という鳴き方、バケツは「>」と「ヴォ！」という音、そして長グツは「O」と「ホゥ?」という音で表すことを理解している。しかもこれを何年たっても忘れないからすごい。

このように、物を表わす記号と呼び名、つまり名前を覚えたので、次は動詞を教えたい。そしたら名詞と動詞で文を作り、ナックとお互いにコミュニケーションできそうだ。

さて、英語を習うときに、私たちは先生が書いたり発音するのをマネして覚えてきた。マネも言葉を覚える重要な要素。そこで、ナックにさまざまな音をマネさせてみた。

ヒトの言葉を聞かせたところ、ナックがマネした音の周波数の特徴や抑揚のパターンが聞かせた言葉と同じことがわかった。こうして世界で初めてイルカがヒトの言葉をマネできることを実証した。

ナックは、トレーナーのくしゃみやお客さんの歓声、はてはパソコンを閉じるときの音まで、聞こえた音はなんでもマネする。二代目江戸家小猫さんと共同研究しているが、動物の鳴き声もクリアした。エサもないのにやっているので、ナックにとってマネは遊びかもしれない。トレーナーがナックに話しかけると、ナックも同じようにマネして返してくる。なんだか本当に会話しているみたい。

それではということで、ナックに突然、私の名前を聞かせてみた。

実験者「ツカサ」

ナック「ウ ワァーー」

少し違う。もう1回。

実験者「ツカサ」

ナック「ツゥクァ サァ」

今度は確かに私の名前。上出来である。こうしてナックは私の名前も呼んでくれた。イルカが自分の名前を呼んでくれるなんて、なんだか嬉しい。

さて、今はまだマネの段階だが、これからその意味を教えていこうと思う。そうすればヒトの言葉でナックと会話できるかもしれない。

高校時代に抱いた荒唐無稽な「夢」が、今は「目標」に変わってきた。

ナックとの会話実験の様子

うちやま眼科医院
日本眼科学会認定 眼科専門医
内山博之（昭和53年卒）

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 2:30~5:45	○	手術日	○	△ 2:00~4:00	○	△ 2:00~4:00

■木曜午後は予約診療
■休診日／日曜・祝日・第4土曜日
秋田市土崎港東三丁目2-24
TEL.018-880-5252

エンパイア歯科医院
院長　佐々木 健（昭和53年卒）
診療受付時間　平　日 AM10:00～PM1:00 PM 3:00～PM8:00
土曜日 AM10:00～PM1:00 PM 3:00～PM6:00
休診日／日曜・祭日
TEL 018-824-6758
〒010-0922
秋田市旭北栄町5-10 鉄砲町バス停前

古四王神社
宮司 亀井哲夫（昭和53年卒）
秋田市寺内児桜一丁目5番55号
古四王神社社務所
TEL (018) 845-0333
FAX (018) 845-4280

弁護士
伊勢昌弘（昭和53年卒）
【事務所】
〒010-0973
秋田市八橋本町三丁目7の18
TEL (018) 823-0744
FAX (018) 863-5575

「おもてなしの国」日本のマナー教育

服部 裕美子（昭和53卒）

日本の「おもてなし」が注目されています。確かに日本のエアラインやホテル業界のプロの「おもてなし」は、世界中の称賛の的です。一方で公共の場面における一般の方々はどうでしょうか……。

例えば東京の電車の中で。松葉杖をついたご老人がお乗りになった時、さっと立ち上がり席を譲るのは決まって外国人。妊婦さんがつらそうに立っていても、席を譲らず寝たふりをする日本人……。

野村総研のデータ（2013年）によると、有識者を対象としたアンケート調査で、日本のおもてなしは、世界で74位という結果。プロのサービスは素晴らしいが、一般人はあまり親切ではない、という残念な評価です。

実際に海外では、見知らぬ方々の親切に感動することが多いもの。つい先日もチューリッヒのとある公園での出来事。友人と2人、ベビーカーを持ち上げながら階段を登ろうとすると、すかさずビジネスマンらしき身なりの立派な紳士が駆け寄り、ベビーカーを運んでくれるではありませんか！「これは、男性の仕事だから…」と笑顔で言い残し……。実に心温まる「おもてなし」でした。「親切は教養の裏返し」という文化背景の国。微笑ましい習慣です。

オリンピック招致プレゼンで語られた「おもてなし」は、世界に対する公約。日本人には、「おもてなしの心」を、上手に表現できるマナーが必要かと思います。文化的背景の違いを超越したグローバルスタンダードなマナーです。

グローバル人財の育成が叫ばれて久しい今日、外国語に流暢なこと以上に、私はこのようなマナーを体現できることが、エリートの条件であると考えています。世界各国のVIPのお客様に接して、その感を強くしました。

「おもてなしの心」を体現できる人財創出が私の役目。グローバルなマナーに添えて、日本人らしい細やかな心遣いができる若者を1人でも多く育てたいと思っています。

はっとり・ゆみこ／1960年秋田市生まれ。聖霊短大卒業後、国際線客室乗務員として約10年JALに勤務。中曽根、竹下、海部首相等のVIP特別便に乗務多数。退社後に上智大学文学部哲学科、同大学院教育学修士課程終了。現在は西武文理大学サービス経営学部准教授。「ホスピタリティ概論」「サービス接遇」「観光実務論」等を教える他、ロシアでは「日本流ビジネスマナー」の講演が好評。

ZOOM UP!

超狭き門 チューバ奏者のリアル

柳生 和大（平成15卒）

皆さんチューバという楽器はご存知でしょうか。トランペットの約3倍から4倍もの長さの管をぐるぐる巻きにしており、オーケストラの中でも最低音域を司る楽器です。僕はオーケストラの中でこの巨大な楽器を担当しております。とても低い音でリズムや長い音を演奏するためあまり目立ちませんが、家でいうと基礎の役割をする大事な楽器です。

オーケストラには1人はチューバ奏者が在籍しており、日本のプロオーケストラと呼ばれる団体のうちチューバが在籍している団体は30弱しかありません。オーディションは当然欠員が出ないと行われません。団員が移籍もしくは、定年退職などの理由で退団しなければ空きが出ないのです。仮に定年までと考えると一団体のチューバ奏者が30年、40年在籍するわけです。

オリンピック並みに募集のスパンが空くこともあります。

ところが音楽大学を卒業するチューバの学生は毎年何十人にもなります。ですからいざオーディションとなると100人近くのチューバ奏者が会場に殺到します。チューバ100台は異様な光景です。課題としてはチューバ協奏曲から抜粋、そしてオーケストラ作品のパートを無伴奏で数曲演奏します。それを全部聴く団員も大変です。中にはぎっくり腰になり立てなくなった人もいるくらいです。しかし合格する人はたった1人だけです。

僕の場合は秋田大学から急に東京芸大大学院を受験、そして右も左もわからず上京、数年やってだめなら秋田に帰って教師をやろうと決めて毎日練習に明け暮れました。思いが通じたのか卒業年度の冬に運よくオーディションがあり、日本フィルに入団することができました。恩師や周りのサポートがあったからこその結果だったと今も強く感謝しています。大学で教える立場になった今、非常に狭き門ですが少しでも彼らの助けになればと思い日々生徒の夢を応援しています。

やぎゅう・かずひろ／1985年男鹿市生まれ。2007年秋田大学教育文化学部卒業。2009年東京芸術大学大学院音楽研究科修了。2010年済州国際ブラスコンペティション（韓国）チューバ部門第3位。同年第27回日本管打楽器コンクールチューバ部門第1位および審査員特別賞受賞。チューバを池田孝幸、杉山淳、稲川榮一の各氏に師事。現在日本フィルハーモニー交響楽団チューバ奏者。洗足学園音楽大学等で後進を指導。

一家で秋高ラグビーに育てられて

秋田ノーザンブレッツ
ゼネラルマネージャー
新出 康史（昭和56卒）

「自分たちはあの秋田工業に勝ったんだ」。

幼い頃、父からよくこの話を聞かされた。当時子どもながらに思ったのは、秋田には絶対的に強い秋田工業ラグビー部という存在があって、秋高ラグビー部が久方ぶりにその強豪を破ったということ。そして、それはすごいことだったのだろうという2点だった。今にして思えば、父のこの言葉が子どもたちも含め3代にわたって秋高ラグビー部のお世話になる一因となったのかもしれない。

父の話では、当時、秋高ラグビー部は慢性的な人材不足で、15人の部員確保が難しいことも多く、その中で故児玉市郎監督が文武両道を実践、短時間の効率的な練習と熱血指導でチームを率いていたそうである。

後年、秋高ラグビー部の記念誌で父の言葉を確認してみた。歴史的勝利は昭和28年9月8日、国体出場をかけた県民体育大会だった。以下はその抜粋である。

「準決勝23年ぶりに宿敵秋田工業を破る。決勝戦は至宝FW夏井（父の旧姓）負傷退場14人で戦い市立に3対0で敗れる」。決勝では父が負傷退場、惜しくも国体出場は果たせなかったらしい。

左から長男卓斗さん、父金市さん、妻みゆきさん、長女彩香さん、筆者

それから四半世紀を経た昭和53年、私は秋高に入学し迷わずラグビー部の門を叩いた。監督は当時も前出の児玉先生。光栄にも親子2代で名伯楽のお世話になることができた。2年次からは監督が渡辺一男先生に代わったが、変わらず限られた時間の中で厳しい練習に励んだ。その結果、3年次には春からどの大会でも決勝は秋高と秋工の接戦となり、両校互角との下馬評の中、高校最後となる花園予選決勝を迎えた。結果は秋工に一歩及ばず全国大会出場はならなかったが、この敗戦の悔しさが大学でも本格的にラグビーを続けることを決意させた。

その後、私は渡辺監督の勧めもあって明治大学に進学、大学日本一も経験させてもらった。卒業後は秋田市役所に入所、ラグビー部で34歳までプレーした後、監督を務めた。現在は、同部をクラブ化した秋田ノーザンブレッツのゼネラルマネージャーとして、相変わらず仕事とラグビーの二足のわらじを履いている。

こうした中、空いた時間には秋高ラグビー部のコーチ的な役割もさせてもらった。小学校来の親友である近藤周平君が、平成7年から秋高ラグビー部の監督を務めており、サポートを頼まれたからだ。彼の卓越した指導力で、低迷していた秋高がめきめきと力をつける中、何と娘がマネージャーとして入部してきた。陰ながらチームを支え、女性としてうれしい褒め言葉かもしれないが、3年間で精神的にずいぶんたくましくなった。そして平成18年、家族で彼女だけが花園の土を踏むことができた。

その後も秋高ラグビー部は、少ない部員を鍛えあげ強豪校と名勝負を繰り広げる。平成21年、今度は息子が部員に加わった。この頃は部員不足のためメンバー編成に苦労した時期で、特に3年次は春に15人のメンバーがそろわなかった。しかし、最後の花園予選にして初めて単独チームで出場、何とその年優勝の秋田中央高校に準決勝で3対10と肉薄した。3代にわたって選手としての花園出場はならなかったが、心身共に成長した息子の奮闘が誇らしかったことを思い出す。

そして、昨年の花園予選。就任3年目の佐藤栄幸監督率いる秋高は大方の予想を覆して8年ぶりに決勝に進出した。決勝で敗れはしたが、圧倒的に力が上の秋工に3対7の僅差で前半を折り返したときは、正直後輩たちにしびれた。

父と私、2人の子どもたちは縁と運に恵まれ、同じ秋高ラグビー部の一員として高校時代を過ごすことができた。そして、そこで素晴らしい指導者やよき仲間に出会い、人間として大いに成長させてもらった。今にして思えば、秋工に勝ち花園に出たい一心で、さまざまな内発的努力をしたことが、自分の人間形成において本当にプラスになっている。

劣勢の中、自らの意志で強敵に挑む。秋高ラグビー部での経験は、まさにさまざまな困難が立ちはだかる人生の縮図だったように思う。

今後、さらに少子化が進行、ラグビー部に限らず秋高の各運動部の運営は困難を極めるだろう。しかし関係者各位には、創意工夫と情熱でこれに立ち向かい活動を充実させ、文武両道の精神を後輩たちに伝えていってほしい。そして、我々OBもこれに大いに協力していかなければならないと考えている。

しんで・やすし／高校から始めたラグビーは明治大学進学で開花、1年次にウイングとして出場した大学選手権で優勝。大学卒業後秋田市役所入り。秋田市役所ラグビー部の選手、監督を経て平成16年、初代秋田ノーザンブレッツ監督に就任。現在はゼネラルマネージャー。父金市氏（昭和29卒）、長女彩香氏（平成20卒）、長男卓斗氏（平成24卒）も秋高ラグビー部で活躍した親子3代にわたる生粋のラグビー一家。

平成29年度
年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、秋田高校同窓会の運営は、その財政基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しております。円滑な同窓会活動を推進するため、平成29年度の年会費納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。同封の払込取扱用紙で郵便局またはコンビニで納入くださるようお願いいたします。

また財政委員会では現在、会費の口座自動振替を進めています。納入手続きの煩わしさを解消し、〝うっかり忘れ〟を防止するとともに経費節減を図るためです。

口座自動振替をご希望の会員は払込取扱用紙にある金融機関名（秋田銀行、北都銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行）を選び、所定の欄にご記入のうえ同窓会事務局にお申し込みください。その際、今年度分の年会費はコンビニではなく、最寄りの郵便局からお振り込みいただくようお願い申し上げます。

年会費に関する取り決めは以下のとおりです。

1. 年会費は会員1人当たり2,000円とする。
2. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。
3. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。

（財政委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

平成26年

5月 渡部 巧（昭61）
9月 川島 由夫（昭37）
高橋 正（昭30定）
6月 岩﨑 牧子（昭34）
打矢 望浩（昭55）
9月 佐々木 弘（昭28）
10月 吹谷 茂（昭22）
11月 納谷 誠（昭37）
12月 本間 恵三（昭36）
高橋 信亮（昭28）

平成27年

1月 小笠原 穣（昭26）
高橋 介康（昭38通）
2月 佐々木 正三（昭19）
石山 洋（昭37）
湊 鶴一郎（昭35）
3月 坂井 俊一（昭59）
4月 野口 力（昭22）
佐々木 順一（昭28）
5月 清水 広（昭23）
進藤 清日子（昭42）
佐藤 章夫（昭35）
小林 喜代廣（昭19）
6月 金 芳彦（昭30）
武田 巌（昭30定）
松田 大太郎（昭10）
嵯峨 和宣（昭32）
7月 田村 鉄男（昭17）
小林 甫（昭42）
赤坂 稔（昭25）
小柳 輝芳（昭32）
8月 斎藤 信隆（昭57）
古田 知毅（平7）
升野 正一（昭9）
小林 信孝（昭25）
千田 昌史（昭32）
田中 公久（昭35）
佐藤 敏雄（昭23）
10月 舛屋 一（昭25）
熊地 實（昭23定）

平成28年

1月 柴田 崇（昭23）
伊藤 幸男（昭26）
斎藤 正俊（昭30）
船木 正男（昭19）
菊地 光（平26）
田口 孝（昭39）
石川 正（昭28）
桜田 善寛（昭31）
北林 照助（昭20④）
櫻井 三男（昭32）
妹尾 雅夫（昭26）
鈴木 弘（昭19）
11月 八島 真一（昭34）
金 茂雄（昭38）
川井 正俊（昭29）
関 和夫（昭29定）
鎌田 勝久（昭29）
伊藤 士一雄（昭20⑤）
加藤 一朗（昭26）
筒井 喬次（昭25）
下山荘 二郎（昭17）
12月 松浦 兵一（昭37定）
小林 幸次郎（昭30定）
石川 良助（昭30）
菅原 実（昭42）
松橋 光雄（昭30）
川尻 真輝（昭43）
菅原 修藏（昭28定）
加藤 幸雄（昭30）
越後谷 憲一（昭41）
千葉 康子（昭45）
柏崎 昇（昭31）

平成29年

1月 佐々木 義彦（昭32）
幸坂 彰夫（昭29）
照井 敏雄（昭21）
竹内 龍一（昭22）
佐々木 平次郎（昭19）
梅津 至（昭37）
菅原 春夫（昭23）
高本 榮（昭41）
宮越 順（昭51）
金 和男（昭29）
鈴木 秀（昭38）
橋本 博（昭34）
土方 生（昭19）
船木 金治（昭27定）
阿波加 順子（昭33）
足利 繁博（昭28定）
長山 譲（昭26）
武田 暢（昭16）
佐藤 壮（昭40）
佐藤 正幸（昭30）
斎藤 盛（昭26）
三浦 脩（昭29）
森内 昭二（昭27）
佐川左武郎（昭16）
安田 幸男（昭37）
池田 芳齊（昭32）
3月 山崎 宏（昭32）
遠藤 鐵宏（昭33）
阿部 正博（昭37）
今野 和彦（昭31）
佐川 照秋（昭29）
嵯峨 賢（昭29）
今泉 金治（昭38）
高橋 和美（昭25）
鎌田 利靖（昭17）
三浦 悟郎（昭23）
松村 榮一（昭36）
金谷 茂（昭20④）
篠木 幸男（昭23）
堀川 浩（昭49）
梁瀬 利男（昭31定）
武田 康（昭32）
利部 征夫（昭37）
斉藤 常雄（昭42）
早川 正明（昭29）
室田 弘（昭26）
長谷部 昭（昭25）
筒井 武次（昭28定）
浅利 哲朗（昭19）
岩田 良二（昭40）
越後谷 隆彦（昭43）
嵯峨 峻（昭33定）

注（昭20④）は旧制中学を4年で卒業、（昭20⑤）は5年で卒業したことを表す

表紙写真

㊦五城目町の森山から大潟村方向を望む。金色に光り輝く水田の向こうにかすかに日本海が見える（2013年5月撮影）
㊤船越水道を走るJR男鹿線。青空に浮かぶちぎれ雲と鉄橋を渡る列車が郷愁を誘う（2016年3月撮影）
いずれも撮影は高橋尚義氏（平成11卒）

三浦クリニック
院長 三浦俊一（昭和53年卒）
〒014-0012 秋田県大仙市幸町4-23-2
TEL (0187) 86-3280
FAX (0187) 86-3281

港町内科皮膚科
◇内　科／鈴木信愛
◇皮膚科／鈴木あけみ（昭和53年卒）
診療時間
●平　日／午前9時～12時
午後2時～ 6時
●土　曜／午前9時～12時
午後2時～ 4時
●日祝日／休　診
(018)845-1482
予約診療も受付しております 050-5810-2629
秋田市土崎港中央6丁目13-25〈駐車場30台有り〉

アキタパークホテル
常務取締役
柴田　司（昭和53年卒）
株式会社アキタパークホテル・マネージメント
TEL 018-862-1515㈹
FAX 018-865-1684
携帯電話 080-3516-5378
秋田市山王4丁目5番10号　〒010-0951
E-mail:sibata8782@yahoo.co.jp

信頼と実績
株式会社 沢木組
代表取締役
沢木則明（昭和53年卒）
常務取締役
渡部道郎（昭和43年卒）
〒010-0511
男鹿市船川港船川字海岸通り2号6番地2
TEL 0185-23-3434　FAX 0185-23-3333

秋田を撮り続けて

高橋 尚義（平成11卒）

秋田魁新報で記者を務める傍ら、趣味で県内の写真撮影を続けてきました。昨年11月、母校に併設する同窓会館で写真展を開催させて頂きました。秋田の四季の風景約30点と、千点以上に及ぶ缶コーヒーの空き缶コレクションを並べる異色の展示会でしたが、企画を了承し、準備から尽力して下さった同窓会事務局に心より感謝を申し上げます。

＊

写真との出会いは秋田魁新報社への入社でした。それまでカメラに触れたことはほとんどありませんでしたが、取材で撮影を求められるように。転機は入社4年目での能代支局への赴任。表情豊かな日本海の夕日を毎日眺めているうち、故郷の海はかくも美しいものかと撮影にのめり込むようになりました。以来、県内各地を駆け回り、風景や伝統芸能を写真に収めました。仕事柄、取材で様々な場所に行くことができたのも、趣味として深化した要因でした。

古城山から撮影した桧木内川の桜並木（2016年4月）

＊

かつての私は秋田に対し、「遊ぶ所が少ない」と、ありがちなネガティブイメージを抱いていました。そうした考えを変えてくれたのが写真でした。自然が見せてくれる鮮やかな色彩、日本一の数を誇る盆踊りなどの無形民俗文化財の奥深さ。レンズを通して見る秋田は、一年中暮らしていて飽きることがない地域だと感じさせてくれました。四季折々に自分が一押しの場面がありますが、今回の同窓会報が発行される5月は五城目町の森山から見る夕暮れが絶景です。頂上付近は南秋田郡の田園風景が眼下に広がる場所。黄昏時、斜光が水を張った水田に差し込む様は神々しさすら覚えます。自分でも気に入っている一枚で、今回の表紙に使わせて頂きました。

＊

県内を撮影し感じるのは、大規模な祭りやイベント以外での撮影者が少ないこと。カメラは定年後に始める方が多く、国内では有名撮影スポットへのツアーが数多く組まれています。全国的に高齢化が進む昨今、こうした流れは続くでしょう。県内では八峰町の神輿の滝浴びや羽後町の花嫁道中など、比較的小規模な行事にも県外から大勢のカメラマンが詰めかけ、夢中で撮っていきます。イベントや風景自体の派手さとは別に、カメラマンから見てフォトジェニック（被写体として魅力的）と思える場面は多々あるのです。一般の観光客のみならず、カメラ好きの方々に対するアプローチを仕掛けることも、交流人口の拡大の一手段として有効ではないでしょうか。

＊

私は昨年12月、家庭の事情で魁新報を退社し、栃木県の那須塩原市に移住しました。これまでのように秋田の風景を切り取ることはできなくなりましたが、県内には新しい角度で撮影されているカメラマンがプロ・アマ問わずいます。写真展の他、SNS等で公開している方もいるので、作品に触れ、秋田の新たな一面を知って頂きたいです。また、機会があればぜひ一度、自らの手で撮影してみることをお勧めします。景色が表情を変えるのは早朝と夕方です。この季節、日が昇る前に起きるのは少々つらいかもしれませんが、身近な場所が絶景に変わる魔法の時間帯なのです。

左から2人目が筆者

たかはし・なおよし／　1980年、秋田市生まれ。法政大法学部卒。2007年、秋田魁新報社に入社。南秋田支局長、県警などを担当。2016年12月に退社し、栃木県那須塩原市に移住。現在、妻の実家が経営するソルテック工業株式会社に勤務。シール・ラベルやフィルムを加工（カット、ダイカット、スリット）する機械製造・開発に従事。

アフラック募集代理店
法人会福利厚生制度推進担当
生命保険協会認定FP
近藤　拓明
Kondo Hiroaki
（昭和63年卒）
〒018-1601
南秋田郡八郎潟町真坂字大川作120
TEL　018-875-5077
E-mail　hiroakon@aol.com

不動産のことなら何でもご相談下さい
金子地所株式会社
〒010-0912 秋田市保戸野通町4-24
TEL018-863-2761
URL http://www.kanekojisho.com/
代表取締役
金子敬司（昭和63年卒）
監査役
金子雄司（平成3年卒）

秋田肛門外科
おぬきクリニック
院長 小貫　学（昭和63年卒）
MANABU ONUKI
〒010-0041 秋田県秋田市広面字鍋沼35
TEL 018-874-7851 FAX 018-834-3221
http://www.onuki-clinic.jp

OZAWA DENTAL CLINIC
小澤歯科医院
歯科医師 小澤尚久
（昭和63年卒）
〒011-0946
秋田市土崎港中央五丁目10-14
TEL 018-845-0542

つどい -TSUDOI-

盛り上がった隔年総会

北秋田支部

昨年11月20日、支部総会を北秋田市鷹巣のホテルニュー松尾で17人の出席のもと開催した。髙橋均幹事（昭和53卒）の司会により、11月6日逝去された同窓会元理事北林照助氏（昭和20卒）をはじめ物故者に黙祷を捧げた。

その後、奈良正人幹事長（昭和41卒）の開会の言葉で総会が始まり、佐藤正孝支部長（昭和34卒）の挨拶、さらにご来賓の安田浩幸校長先生からもご挨拶をいただいた。衆議院議員金田勝年法務大臣(昭和43卒）からのメッセージが読み上げられた後、議事の進行に移り役員改選の承認をいただいた。その後は懇親会に突入。校歌斉唱の後、同窓会の佐藤英明事務局長の発声で乾杯し懇親会の幕が開いた。秋高野球部OBの日景勇人氏（平成7卒）のスピーチで大いに盛り上がることとなった。当支部は勤務先の異動で赴任した会員が多いこともあり、隔年ごとに開催している。2年後にまた再会できることを約して散会した。　（事務局・佐々木 孝憲＝昭和42卒 記）

“青春は歳に非ず気概なり”

秋高31会

「1」が三つ揃いで「31」との遊び心と、亭主の夜行に否定的な山の神の存在を意識して昼の時間帯に！ということで、我ら昭和31年卒の同期会を「31会/卒業60周年＆傘寿を祝う会」という冠を付けて、昨年11月1日午後2時30分から秋田市の協働大町ビルで開催しました。

この年代になると、突然の体の不調で出席→欠席の仲間も出ましたが、東京、神奈川、千葉、福島在住を加え46人が一堂に集結。

「青春とは歳に非ず気概なり。我ら一生青春でGO！GO!平均寿命までは未到達だが、健康寿命は遥か超越」と元気印でY Yガヤガヤ。意気軒高たるシニアの集いとなりました。

飲んで、踊って、歌って大いに盛り上がり、この会は今回を最後にしてはならじ！と幹事団に発破がかかりました。

（松野　厚 記）

秋高音頭復活を励みに

応援団OB会・紫紺の会

昨年12月10日、秋田市の協働大町ビルで10人が参加して忘年会を開催しました。5人が参加した麻雀交流会（どこぞの市長に教えてあげたい「カネを賭けない麻雀」です）に続く懇親会で話題になったのは、10月に母校で現役生徒と行った秋高音頭伝承会。

応援歌練習で歌は伝えているものの、いつの頃からか踊りが途絶えていたという秋高音頭を現役生徒に伝える機会を持てたことは、紫紺の会にとっても大きな出来事でした。地元テレビ3局で放送されたニュースのDVDが再生できないというハプニングもありましたが、久々に踊った秋高音頭の話題で大いに盛り上がりました。

今年も母校や後輩のために力を尽くすことを誓い合い、1次会お開きのあとは夜の街へと繰り出して行きました。

（保坂 尚吾＝昭和55卒 記）

早くも次回同期会の企画

平成14年卒同期会

1月2日、秋田ビューホテルにおいて、恩師10人を含む約100人が参加し、卒業15周年を記念する平成14年卒業生の同期会を開催しました。学年主任の安藤巳智子先生からご挨拶をいただいた後、生徒会長（当時）の若山佑太君の発声で5年ぶりの再会を祝して乾杯しました。

約半数が首都圏等の県外からの参加だったほか、同期の夫婦がそろって参加する例も見られるなど、改めて同期の愛校心を感じた一日でした。

早速、「卒業20周年はこのような会にしよう」と次回の同期会企画が飛び出すなど、再会の誓いを交わしつつお開きとなりました。　（中嶋 結也 記）

JAZZセッションで歓喜の渦

平成4年卒同期会

1月2日午後2時から、計50人の参加で「卒業25周年記念同期会」が秋田市のイヤタカで行われた。

秋高教諭の松渕烈子の司会、発起人生徒会長（当時）鈴木孝友の挨拶、陶芸家田村一の乾杯で宴が始まった。恩師6人からの近況報告の後、卒業生からは「もう一度先生方の授業を受ける機会が欲しい」という声が聞こえてきた。続いて、懐かしい秋高の映像DVDを鑑賞した後、プロフリューゲルホルン奏者土濃塚隆一郎、現役秋高生ピアニストの向井君、恩師のドラマー山本長幸先生のJAZZセッションで会場は歓喜の渦に包まれた。

その後、秋高OBバンド「ザ・カウンセラーズ」の演奏、元応援団で秋高教諭の草階健樹の校歌とエール、（株）インスパイア社長平野井景一の中締め、最後は我らが秋高野球部主将（当時）通称ヨッチこと佐藤幸彦の締めの挨拶で盛大に閉会した。（鈴木 孝友 記）

穏やかに近況語り合う

秋高三三会

昨年9月9日、ホテルメトロポリタン秋田において、32人（県外から4人）の出席があり、例会を開催。今回は、総会前の行事（講演・見学等）は行わず（10年ぶり）、また、当会では初めて恩師のご出席をいただけなかった。

斉藤信行幹事の司会でスタート。前日、畑澤先生から頂いた近況の報告があり、全員で再会出来ることを強く願った。物故者へ黙祷、校歌斉唱、諸報告（会務・同窓会・会計）が行われ、平成27度同窓会年会費納入者数180人で第1位になったとの報告もあり、承認。工藤雄一幹事作詞作曲の「花切手」（作詞は李承信氏と共作）の独唱を聴き、亡き友と多くの自然災害被災者をしのんだ。

石山元一氏（奈良県から）の乾杯で懇親会へ。今回は多くの方々の「スピーチ」があり、あちこちで穏やかに近況を語り合う姿があった。話は尽きず、締めくくりは全員輪になって、「校友会歌」を力強く合唱。そして、さわやかな脇坂良子幹事の閉会の挨拶で幕。せめて1年に1回は会おうと再会を約して、それぞれ会場を後にしました。

（佐藤 満雄 記）

秋高同窓生の活躍に期待！

飯田川支部

昨年11月26日、平成28年度総会を同窓会本部から佐藤英明事務局長をお迎えし、10人が出席し大将寿司で開催した。新野副会長の挨拶に続いて「学校概要」のリーフレットと「同窓会の栞」が配布され、それに基づいて佐藤事務局長から説明があった。その中で学校のお宝や秋高音頭復活の話題などが紹介された。

またノーベル賞候補者にのぼった同窓生が今回は受賞に至らなかったことも紹介されたが、次年度以降の快挙に期待したい。

さらに、菊沢竜佑投手のヤクルト入団、楽天ジュニアコーチ就任が決まった後藤光尊選手の話題も出て、今季のスポーツ紙面が楽しみである。

私事ではあるが、毎シーズンこまち球場と八橋球場で高校野球を観戦しており、秋高野球部を甲子園アルプススタンドで応援することが出来るよう待ち望んでいる。

飯田川支部の今後の活動に関しては、昭和矢留会との交流促進や潟上支部設立に向けた働きかけが課題となっていることなどが話題となった。

締めは恒例となっている伊藤敏和君のリードで校歌を斉唱。今年も11月に総会（霜月の会と命名？）を開催することを確認し、多数の出席を期待しつつ散会した。

（三浦 浩一郎＝昭和37卒 記）

卒業10年目に120人集う

平成19年卒同期会

1月2日、秋田ビューホテルにて、平成19年卒業生の卒業10周年同期会を開催いたしました。卒業後初めての同期会でありましたが、当日は5人の恩師にもお越しいただき、総勢120人の盛会で終えられたことをまずもって感謝いたします。

久しぶりの再会に皆、秋田高校で過ごした3年間の思い出など和気あいあいと語りあい、改めて同期の絆を深めることができたと感じました。

これを機にさらに交流の輪が広がるとともに、次回の同期会もより盛大に開催されることを期待しております。

（加賀 有陽 記）

❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

創部120周年 感無量の総会

秋艇会（ボート部OB会）

3月11日、秋艇会総会および懇親会を秋田市の第一会館本館で開催した。参加者は32人。総会では佐々木智彦氏（平成9卒）による日本ボート界の現状と展望、年会費等の説明があった。次に金子匡雄氏（昭和38卒）の提案で新会長に池田重秀氏（昭和44卒）を推挙、その後承認された。

後半には拍手の中、現役部員9人が入場し自己紹介。彼らによる「見よ紺碧の水の面に」で始まるボート部歌が披露され、ある先輩からは「歌声を聴いて涙ぐみそうになった」との感想も寄せられた。懇親会では昔話が弾み、最後は大先輩、後藤紘雄氏（昭和35卒）による秋艇会を盛り上げていこうという力強い励ましの下OBが思いを一つにし、盛況のうちに散会した。

ボート部は2016年に創部120周年を迎えた。今後とも若い世代の和も加え、さらなる選手の支援に努めていきたい。　（顧問・坂本 公正＝平成6卒 記）

地方創生に全力疾走

北都銀行支部

年度初めの4月8日、秋田キャッスルホテルで、安田浩幸校長先生と佐藤英明事務局長にご出席いただき、北都銀行支部大会を開催しました。

10数年ぶりの開催とあって、当行会長でもある町田睿同窓会長、斉藤永吉頭取はじめ、社外取締役の方々、グループ企業の方々を含めて20代から70代まで世代を超えて総勢60人が集結し、改めて同窓の絆を再確認することが出来ました。

校歌にまつわるエピソードや母校の近況報告、昔お世話になった先生方や部活動の回想、当行の地方創生に向けた取り組みを同窓会と連携しながら積極的に関わっていこうとの呼びかけ、今後も後輩に入行してきてほしいとの願いなど、話が尽きないままあっという間に時間が過ぎ、最後は校歌を5番まで大合唱。歌詞にある「世のためつくす」を誓い合って散会しました。　（金田 正樹＝昭和63卒 記）

後藤選手のメッセージ紹介

平成９年卒同期会

1月2日、秋田ビューホテルにおいて、恩師を含む約60人が参加して卒業20周年を記念する同期会を開催した。会の冒頭には、スクリーンに在校当時の写真や現在の学校の様子が映し出され、高校時代から活躍し、昨年プロ野球を現役引退するまで、我々に夢と希望を与えてくれた後藤光尊君（元オリックス、楽天。現楽天ジュニアコーチ）のメッセージが流されるなど、感動的なオープニングで幕を開けた。

Matirogこと北嶋友暁君の名司会のもと会が執り行われ、恩師からはかつての教室の情景を思い出させるそれぞれに趣と愛情に満ちたお言葉をいただいた。そして旧友と大いに語り合い、さらに親交を深め合うことができた。今後も東京での同期会の開催をはじめ、さまざまな機会に同期生の交流や親睦を図っていきたい。　（小玉 貴弘 記）

賑やかに奥羽線上りの会

昭和29年卒同期会

ユニークな同期会スタイルで人気を得た奥羽線上りの会は今回で7回目を数え、昨年も9月23日に大仙市の大曲エンパイヤホテルで開催された。

前回の18人に比べ今回は12人と参加者が少なく、80歳を過ぎたからか体調を崩して欠席する会員もみられたものの首都圏から3人が参加して、62年前にタイムスリップしたかのような賑やかな開会となった。

特に、旧六郷町出身で由利本荘市で皮膚科の医院を開業していた故赤坂哲治郎君の夫人赤坂悦子さんが特別ゲストとして参加。恒例のショートスピーチも年々味のある中身で熱心に聞き入る一幕もあった。故赤坂君は現役時代陸上競技部に属し、湯沢を起点とする駅伝では、刈和野･和田間が持ち場で前の晩、刈和野の奥田君宅に泊まった等のエピソードが披露された。

この会は汽車通学と下宿を経験した県南出身者の会だが、会場を大曲にするのが特別な意義を持つことで、今年もまた多数の参加が期待されるゆえんである。

（世話人・矢野 惠之助＝昭和29卒 記）

「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず原稿を短縮したり、次号に回すことがあります。ご容赦ください。

切り抜きで広がる未来

2G　佐々木 杏子

「地球外生命体はどこに、どんな姿でどのように存在しているのか？　私が見つけたい！」

小学4年生の頃、私の地元にある能代ロケット実験場で、国際宇宙ステーションに滞在中の野口聡一宇宙飛行士との交信イベントに参加し、この夢を持ちました。これをきっかけに宇宙関連のイベントや講演会、ボランティア活動に参加するようになりました。

新聞の切り抜きを始めたのもこの頃でした。小・中学校では「地球を飛び出した仲間たち」と題して宇宙についての幅広い話題についてまとめた作品を制作しました。高校生になり理科が大好きな仲間や面白い先生方と出会ったり「科学者の卵」に参加させていただいたりして視野を広げることができました。

このようなこともあり、今回は地球外生命体についてさまざまな角度から切り込んだ作品に仕上げました。これまで行われてきた探査の方法をまとめる中でこれからはどのような方法が考えられるのか、自分なりの考えを持つことができました。

科学は一日一日の進化の積み重ねであり一人一人の小さな積み重ねであることを切り抜きを通して学びました。また、努力が報われなくても、強い意志を持って続けることの大切さも学びました。あの時思い描いた夢を諦めずに感謝の気持ちを忘れず、一歩一歩前へ進んでいきます。

第8回新聞きりぬきコンクール最優秀作品

数学の高みへ

2G　成田 涼平

数学オリンピック。それは、全国の数学好きのつわものが腕を競い合う、知の決戦の舞台といえましょう。今回、自分がその中に交じって、予選を突破できたことを、嬉しく、光栄に思います。

僕は小学生の頃から算数・数学に親しみ、算数オリンピックや広中杯などに度々参加していましたが、結果はあまり芳しくありませんでした。しかし、自分を試す機会があるなら逃す理由はない、といったような気持ちで臨むことにしました。その後は、県教育委員会の方々に対策セミナーを開いて頂き、友人と共に問題に挑んだり、新たな考え方を発見したりと、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

そして当日。できる限り初めの方の問題を正確に解くことで、得点につなげようと試みました。それが功を奏し、なんとか12問中6問、予選通過ギリギリの正解数をもぎ取ることができました。先生方からもお褒めの言葉をたくさん頂き、有り難く思います。

しかし、仙台で挑んだ本選の問題の難易度は、当然ながら予選のそれを遙かに超えており、無念にも本選通過は叶いませんでした。それでも、国際的に通用するレベルの数学技能がどれほど高度なものであるかを知ることができ、非常に貴重な体験をさせて頂いたと思っています。今回のリベンジをかけ、今年もこの舞台に足を踏み入れるつもりです。先生方、家族をはじめとする、支えて下さった皆様への感謝の気持ちを、より大きな成果を出すという形で表したいです。

笑顔の数学オリンピック選手

クリニック八橋和田内科
院長・医学博士
和田　勲（昭和63年卒）
ISAO WADA
〒010-0962
秋田県秋田市八橋大畑2丁目3番3号
TEL:018-824-8770　FAX:018-824-8771
http://clinic-yabase-wada.com/

Be Engineering.
三菱電機株式会社 秋田県代理店
RYOMEI 菱明三菱電機機器販売株式会社
代表取締役社長　寶田　謙一（昭和63年卒）
【本　社】秋田県秋田市旭北寺町1-2 TEL:018-862-5511（代表）FAX:018-865-1099

★応募者増加・採用力アップ・定着率向上
【一石三鳥の採用コンサルティング】
★大学生の就職支援・社会人の転職支援
人財活性コンサルティング
ハックル
代表 高貝浩也（昭和63年卒）
〒982-0014
宮城県仙台市太白区大野田2-3-20-403
（TEL）080−3094−3874

異国の空気

3A　角掛　ののか

「うわあ…」

スワンナプーム空港に着いた飛行機のドアが開いた途端、誰からともなく声が漏れる。タイの湿った熱気が一気に襲ってきたからだ。足を踏み出し、異国の空気に身を投じる。私たちの「熱気」に包まれたタイ研修が始まった。

バンコクの街は一言で言うと「不協和音」だ。三輪自動車と高速バス、高層ビルとトタンの民家、ベンチでまどろむ人と勉強漬けの人。日本人が合わないと決めつけている概念同士が、この地では共に息をする。景色全てが、自分の知る世界の狭さを気づかせてくれた。景色だけでない。タイの方々との交流は、私たちの常識を良い意味で壊してくれた。

歴史的建造物をタイの生徒と見たときのことだ。タイの高床式民家を見て、「タイは洪水が多いから大変だね。家の下に川があるなんて不安だよ」と言うと、「まあね。でも、タイ人はこの暴れる川が嫌いじゃないんだ。僕たちの文化は川と育ってきた。命の源だよ」とのんびり返された。途端に私は、自分の幼稚な考えを恥じた。それと同時に、自分の知らない場所や考え方への好奇心が、どんどん膨らんでいった。

また、タイの人々の優しさは深い。彼らは渋滞大国と名高い道路を進み、朝早くから何時間もかけ私たちを迎えに来てくれた。そんな大変さなど全く顔に出さずに。感謝しかない。

タイで感じたことは、自分にはこれから学ぶべきことが山ほどあるということだ。

すばらしい体験を与えてくださった同窓会の方々に、心から感謝を伝えたい。

タイの熱気と優しさに包まれて

相互理解深めたタイ交流

引率教諭　茜谷　信也

秋田高校同窓会の支援事業として、第2回海外派遣交流事業が3月19日～23日（4泊5日）に実施された。昨年度も訪問したタイのバンコクのキングモンクット工科大学トンブリー校（KMUTT）との2日間の交流活動を行った。昨年度との変更点は、期間が1日減り、訪問校が2校から1校となったことと、2月から3月の1カ月遅れの実施となった点である。

派遣生徒は昨年と同数で、第9回佐々木毅杯「知の探究コンテスト」最優秀賞の2年B組女子4人、優秀賞の1年D組男子5人の計9人である。

交流1日目の朝、訪問校の生徒たちが普段食べている朝食をご馳走になった。そして、互いの国の文化や学校生活についてプレゼンテーションにより理解し合った。また、日本から持っていったお土産を訪問先の生徒・教職員に手渡した。その後、校地内にある図書館をはじめとする学習施設を見学した。午後にはAncient Cityに移動して、両校の生徒同士がペアを組んで交流活動を行った。その成果は招待された夕食会の席上で、それぞれのグループごとに発表した。

2日目は、パタヤにあるノンヌット・トロピカルガーデンまで足をのばした。ここでも、両校の生徒同士で活動した。ステージショーを鑑賞したり、象乗りを体験したり、たくさんの動植物を観察しながら、現地生徒と交流を深め合った。この日の夕食も招待を受けて、海辺のレストランで魚介料理をご馳走になった。

活動最終日は、バンコク市内にある王宮や寺院の見学を通して、タイ王国の歴史と文化の理解を深めた。

交流1日目には生徒8人・教職員10人、2日目には生徒8人・教職員6人の訪問校スタッフからの盛大な歓迎を受けて、充実した交流活動を行うことができた。訪問校の生徒・教職員にはたいへん感謝している。また、このような機会は、生徒たちの将来にとって、とても貴重な体験であり、同窓会の支援には感謝を申し上げたい。

一級建築士事務所
渡邊唯建築設計事務所
代表　一級建築士
渡邊　唯
（平成10年卒）
〒010-0921
秋田市大町1-2-2 GALLERIA大町2階01号室
018-827-3936
info@yuiwata-archi.com
http://yuiwata-archi.com

社会保険労務士法人
秋田労務行政事務所
代表社員
特定社会保険労務士
土田将勝
（平成10年卒）
〒010-0001 秋田市中通6-1-24
TEL:018-835-2388　FAX:018-835-3709
E-mail:aktroumugyousei@eagle.ocn.ne.jp

株式会社あきたこまつアニマルサービス
あきたこまつ動物病院
手形病院　秋田動物CTセンター　御所野病院
Akita Komatsu Animal Hospital
代表取締役　院長
小松　亮（平成10年卒）

四川Dining & Bar
臥龍　創香
Soushan
オーナーシェフ
草皆洋介
（平成10年卒）
秋田市山王2-7-1 ドミ山王104
TEL 018-853-8773

秋田高校同窓会だより vol.101
2017年5月25日
AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

秋高NOW（ナウ）

意外にアクティブな部活動

写真部

秋田高校写真部の主な活動は、学校行事や日常の風景をカメラに収め、その写真の中から写真の大会に出品することです。学校行事としては、運動会、学級対抗での写真撮影があります。運動会での各雲隊のチアリーディング、リレー、綱引き、騎馬戦、また、学級対抗での球技種目の白熱した戦いは、とても迫力のある写真となります。

また、秋高祭では、開祭、夜祭、グランドフィナーレでの催し物の撮影、一般公開中は生徒や一般客の記念撮影や学校行事、部活動での写真を販売します。大森山動物園での写真講習会は可愛い動物たちを撮影しながら、他校生と撮影した写真を見せ合い評価し合えて良い刺激となります。

主な写真大会としては、高校写真連盟展と総合美術展があります。どちらも上位の全国高校総合文化祭に繋がる重要な写真展です。ここでは、プロのカメラマンの方に審査と講評をして頂くことができて、自分の実力や他の生徒の優れた撮影技術を学べる機会となっています。また、年によっては撮影旅行を生徒主体で企画し、県内外の自然豊かな風景を撮影しに行きます。

写真部では、一眼レフカメラを持っていない生徒でも撮影ができるように、貸し出し用のカメラを用意し、誰でも写真を楽しめるようになっています。また、写真に対して強い興味と向上心があれば、誰でも大会で成績を残すことが可能です。これからも写真部が盛んに活動できるように、新入生勧誘や部内の整備、大会への出品を意欲的に行っていきたいと思います。

〔3F 渡邉　瑛〕

渡邉瑛「雄叫び」（全国出場作品）

秋高ならではのトレーニング

バドミントン部

私たちバドミントン部は現在男子2人、女子6人の計8人で活動をしています。男子は全県大会での学校対抗ベスト4、女子は学校対抗・個人戦ともにインターハイ出場と、男女でそれぞれ違う目標を掲げていますが、性別や先輩・後輩関係なく、日々お互いを高め合いながら一生懸命練習に取り組んでいます。また、部員数が少なく、特に男子は2人しかいないので、この春に入学した新入生を勧誘しようと必死です。

秋高のバドミントン部には、他校のバドミントン部にはない、ちょっと特別なトレーニングがあります。それは、うぐいす坂を利用した「坂道ダッシュ」です。何らかの理由で体育館が使用できないときによく行っています。中には、全体練習が終わった後の自主練習で坂を走る者もいます。バドミントンはとにかくスタミナがものをいう競技なので、それを鍛えるには坂道ダッシュはもってこいのトレーニングなのです。

もちろん坂道ダッシュ以外にもさまざまなトレーニングに取り組んでいます。ただ漠然と練習をこなすのではなく、一つ一つの練習に全員が課題意識を持って真剣に取り組むことが重要です。

私たちはたくさんの人に支えられて、バドミントンをすることができています。支えてくれるすべての人に感謝し、その恩返しをするためにも、これからも精一杯練習に励んでいきたいと思います。

〔3B 渡部　愛実〕

シャトルに青春を捧げ、さらなる高みを目指す

事務局通信

名簿委員会では、名簿第41号を平成30年9月に発行（予定）しますが、その印刷業者選定のための入札を実施します。

参加を希望する業者は平成29年6月2日までに事務局にお申し出ください。入札説明会の日程等をお知らせします。

なお、参加資格は、経営者、役員または準ずる者が同窓生であることを必須条件といたします。

編集後記

開業間近の医院を跡形もなく消し去った大震災の悲劇から人はこうも気丈に立ち直れるものなのか。過疎地域の医療を支えてきた医師の一日も早い復帰を望む住民の声が後押ししたにせよ、被災からわずか1カ月後には最小限の医療機器とスタッフを集めて仮設診療所を開設、診療を再開した大野医師。昨日も明日もなくただひたすら患者の今と向き合ってきた6年間だが、これを淡々と振り返る氏の人間の大きさと強さに胸を衝かれる。

（半可通）

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018－832－9553　FAX 018－832－9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社